

2013年 社長年頭挨拶(弊社社内報掲載)

新年明けましておめでとうございます。
寿ぎの新年をご家族とともに迎えられたことと存じます。

しかし一方で、東日本大震災から1年半が経った今でも不自由な生活を強いられている皆様のことに思いを致しますと本当に心が痛みます。被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興をお祈り致します。

さて、昨年はアメリカ大統領選でのオバマ氏再選、中国での習近平体制発足、また年末には北朝鮮のミサイル発射、さらには我が国の総選挙・政権交代など、政治の世界では実に様々なことが起きました。経済の面でも、欧州の通貨危機問題は終息せず、世界経済の大きな重しになり続けました。尖閣問題に始まった中国リスクも未だに影響の度合いが計りきれません。我々の身近なところでは、新日鐵住金が発足し、或いはまた日立製作所と三菱重工業が火力発電事業の統合を発表するなど、グローバル競争を勝ち抜くための厳しさを強く感じさせられた年でもありました。東京スカイツリーの開業やロンドン・オリンピックでの日本人選手の活躍など、数少ない明るい話題を除くと、全体としては環境の重苦しさを感ぜさせる一年だったようにも思います。

こうした厳しく重苦しい経済環境ではありましたが、会社の業績に目を向けると、一昨年の後半くらいから、リーマン・ショック後の低迷からの回復の兆しを感じることができるようになったと思います。業界ごとの斑模様ではありますが、多くのお客様は困難を抱えながらも、ITの力を活用して自らの競争力を高めようと、積極的に前に進み始めたのではないかと思います。

こうしたお客様の期待に応えるために我々がやるべきことは明瞭だと思います。

一言で言えば、マーケット・お客様の声に耳を傾けながら、NHS ならではのモノ・サービスを提供することでしょう。信頼される技術力・提案力、洗練されたソリューション力、確かな実装力、秀でたコスト・パフォーマンス、そして何よりもシステム屋としての矜持。

これらのものに一段と磨きを掛けて、お客様にとっての価値を追求していかなければなりません。

昨年12月の日銀短観では、大企業・製造業を中心に業況判断が大きく落ち込みました。本来なら政権も変わり、また新しい年を迎えたので、政治にも経済にも、もっとわくわくするような期待感を抱きたいところではありますが、重しはそう簡単にははずれないように思います。そういう時こそ、自らの道は自らが切り拓くという原点に立ち戻らなくてはならないのでしょう。今年も、技術の進歩、人々のニーズの変化に目を凝らしながら、誠実に、スピード感を持って自らを鍛えていきましょう。

最後に今年4月で当社は創立25周年を迎えます。長きに亘ってご愛顧いただいたお客様や、この会社を育ててくださった諸先輩に改めて感謝申し上げますとともに、これを機に社員一同決意を新たに、次の四半世紀、半世紀への航海に乗り出していきたいと思います。

今年が皆様とご家族にとって、健康で活力に溢れ、幸せな一年になりますよう心からお祈り致します。

以上